



ここまで治る！ ラップ療法

～ラップ療法の基本と応用から



1990年代後半から2000年代にかけて、「ラップ療法」という新しい創傷治療手法がインターネットなどを通じて、一般にも広く知られるようになりました。2010年に日本褥瘡学会は「いわゆる『ラップ療法』に関する日本褥瘡学会理事会見解」を明らかにしましたが、その後、「不適切な湿潤療法による被害 いわゆる“ラップ療法”の功罪」と題する論文が日本皮膚科学会雑誌上に掲載されました。ラップ療法が一般的になり、エビデンスも蓄積されてきた今だからこそ、ラップ療法とは何か、しっかりと学びなおしましょう。創が治癒するとはどういうことか、その仕組みをもう一度理解して、よりいっそう適切な看護を実践していきましょう。

法のすべて 不応事例まで～

企画編集 岡田晋吾
(北美原クリニック 理事長, 函館五稜郭病院 客員診療部長)

p.5	1	ラップ療法の歴史とその意義	末丸修三
p.16	2	ラップ療法のエビデンス	武内謙輔
p.21	3	褥瘡治療の基本的な考え方とラップ療法の意義	岡本泰岳
p.28	4	ラップ療法の基本手技	水原章浩
p.36	5	認定看護師の立場からみたラップ療法	松原恵み
p.45	6	ラップ療法の合併症とその対策 ～熱傷のラップ療法まで～	水原章浩
p.53	7	在宅でのラップ療法	小林和世
p.59	8	介護施設におけるラップ療法 ～看護師・介護職員の協働の重要性～	大西山大
p.67	9	ラップを用いないラップ療法	秋山和宏
p.72	10	ラップ療法の正しい普及のために	江川安紀子